

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100754		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホーム 美里 壱		
所在地	福島県福島市南矢野目字道下36-12		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

株式会社 あいの里では誕生会、敬老会、クリスマス会に力を入れております。入居者様が楽しく過ごしていただけるようご家族様や地域の方々とも協力しながら本社、他事業所の職員、自事業所の職員が一丸となり計画し実践している。

入居者様に対して誠心誠意のケアに努め、安心と安全に過ごしていただけるように、職員一同取り組んでいる。畑で野菜を作ったり、お花の手入れ等入居者様と一緒に季節を味わっています。地域の方々の協力が得られ夏祭り、クリスマス会等行事などを一緒に計画し行っています。消防訓練などにも積極的に参加、ご協力をしていただいています。

年1回の町内会親睦会にも招いていただき入居者様との楽しいひと時を設けていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 認知症であっても一人の人として尊重し、個々人のニーズや思いを汲み取り、これまでの生活歴等を把握しながら、利用者が望む支援を行っている。利用者ごとの誕生会にはコンセプトを設定し、職員全員でどんな一日とするのかを情報共有しながら、利用者にとって楽しい一日となるよう支援している。

2. 利用者・家族の意向に合わせ事業所での看取りが行われている。終末期は、主治医や訪問看護師の全面的な協力体制があり、全職員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議や全体会議にて理念を唱和し実践に繋がるように職員で共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の基本理念を実践できるように毎年、目標を策定して、玄関ホールに掲示している。毎月、全体会議やユニット会議の冒頭に全職員で基本理念を唱和し、共有しながら実践に努めているが、今年、策定した事業所の目標は、職員間で共有されていない。	事業所の目標も職員間で共有できるように毎月の会議等で唱和する等、工夫して取組んで欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、クリスマス会は町内会の方と協力、計画を立て行っている。	地域の懇親会等には、利用者と参加し、事業所行事(夏祭り・敬老会・クリスマス会・避難訓練・運営推進会議等)には地域の人の参加があり、双方向の交流が行われていたが、現在、コロナ禍にあり、交流が途絶えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	北信西地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加、地域の方々に認知症の理解の発信をしている。本社より指導者資格を持っているものが講師をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ヒヤリハット、行事等に関し意見をいただきサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催され、事業所からは、事故・行事・利用者状況等の報告を行い、委員から出された意見等はサービス向上に活かしている。現在は、コロナ禍で書面開催となっており、委員の意見も書面で把握している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北信西地域包括支援センター主催のケア会議や定例会に出席し協力関係を築くように取り組んでいる。入居者様様の状況報告や相談を行っている。	市の担当者へは不明点等の相談をしたり、事故報告等を行っている。生活保護受給者の手続きや報告・相談をし、市の生保担当者が事業所を訪問している。その際、事業所の運営状況の報告や市からの情報提供等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ユニット会議にて不適切ケアチェックリストを行い振り返り入居者様に寄り添うケアに努めている。	身体拘束廃止に向け指針を作成し、毎月、身体拘束適正化委員会を開催し、「不適切ケアチェックリスト」で日頃の支援内容を振り返り、また、職員研修会を開催し、身体拘束による弊害の理解を深め、身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヒヤリハットの検証を行い日頃のケアが見過ごされていないか注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について知っているが活用する場がなく積極的な学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明を行い確認しながら進め理解と納得を得ている。コロナ禍で自粛中		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様に参加していただき、要望や意見を出していただいている。コロナ禍で自粛中	家族が通院介助で来た時や窓越し面会時・電話連絡時に、利用者の生活状況・健康状態等を報告し、その都度、家族からの意見・希望を伺い、それらを運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議には本社の代表が参加し意見や提案を聞いていただき運営に反映させている。	管理者や主任を中心に職員同士の連携が良く、何でも話せる体制となっている。意見や提案等は会議等で話し合い運営に反映させている。家庭事情に合わせて、勤務体制の変更等が可能となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議、主任、副主任会議等で状況を聞いていただいている。また話したいことがあれば直接代表と連絡がとれるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催の研修には状況に応じて内容を決め開催している。実践者研修、リーダー研修等推薦し参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議・北信西定例会、グループホーム協議会管理者会議に参加し他事業所の交流と情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や申し込みお際にお困りごとや今後についてお聞きしている。職員と情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様の思いをお聞きしている。随時連絡しプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時、ケアマネに情報をお聞きし計画作成している。ご家族様に意見をいただき最善の方法を考えていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事、洗濯畳、掃除等入居者様が役割をもって生活できるように見守っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会に参加していただいている。病院受診はご家族様にご協力を得ている。入居される前の状況を御家族様にお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の知人、友人が来られています。	利用者が今まで築いてきた人間関係や社会とのつながりを大切にして継続できるよう支援している。現在コロナ禍のため、窓越し面会となっているが、家族と会える機会を作り、利用者の不安を解消し馴染みの関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様がコミュニケーションがとれるスペースを確保し本人様の居場所も尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても病状のお伺いや近況伺いの連絡を入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の気持ちを傾聴し、希望に応えられるよう努力する。ご家族様とも話し合い進めている。	日常ケアの中での些細な会話から利用者の意向把握に努めている。また、困難な場合は表情や仕草等から察したり、家族から意見や情報を得て、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様やケアマネに話をお聞きし状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアでの気づきを記録に残し職員全員が周知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にてカンファレンスをし医療や家族様との関わりも視野に入れ本人様ご家族様の思いに沿った介護計画を作成している。	利用者の意向や身体状況・家族の要望をもとに、職員の意見を取り入れ介護計画を作成し、支援を行っている。介護計画の見直しは3ヶ月毎に行っており、心身状態の変化やモニタリング結果をもとに、見直しを行い新たな介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌、ヒヤリハット等記入し職員間での情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に必要とされる見極めを職員やご家族様にも相談しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で地域のボランティアさんに来ていただき、歌や踊りなどを楽しんでいる。現在はコロナ禍で施設内にて職員が実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と往診の体制をとっている。ご家族様への報告、職員の周知。緊急時には主治医の指示のもと、または訪問看護師に連携し対応している。	利用者・家族の希望に沿って、協力医や従来からのかかりつけ医での受診支援を行っている。かかりつけ医への通院は、基本、家族対応であるが、状況によっては、職員が同行する場合もある。協力医の往診等の結果は、毎月コピーを家族に送り情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的医療連携をし健康管理に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員、医療連携室等連携をとり、早期退院や今後について取り組んでいる。ご家族様にも負担がかからない対応に心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で意向をお聞きしている。さらに重度化した時は出来る事、できない事等説明し本人様、ご家族様の意向を確認している。家族様、医療、看護師、スタッフと方針を共有し支援している。	入居時、事業所の「重度化・終末期ケア対応指針」を説明し、利用者・家族の同意を得ている。また、利用者が重度化した際には、主治医から家族に説明があり、家族の意向確認後、医師・看護師・家族・スタッフで方針を共有しながら、看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	町内会の地域の方や運営推進のメンバーの方の協力を得て行っている。	「消防計画書」が策定されており、防火管理者を中心に自衛消防隊が編成され、隊員の任務が定められている。総合防災訓練や夜間想定避難訓練を実施しているが、コロナ禍において訓練には、町内会や運営推進委員の方々の協力は得られていない。非常用備蓄品として水・米・カセットボンベ・缶詰類・防災頭巾・ヘルメット等が準備されている。	コロナ禍の中、防災訓練を実施しているが、防火訓練が中心であるため、今後は、火災だけでなく、地震・風水害等の訓練も実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本理念のもとに入居者様に対して誠心誠意のケアに努め、人生の先輩としての尊敬の念を持った言葉かけや対応にあたっている。	「接遇マニュアル」が策定されており、利用者一人ひとりが、今までの人生の中で、培って来た経験・人格等を職員が把握・理解・尊重し、言葉かけや対応にあたっている。また、利用者の記録等は鍵付きのキャビネット等で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように声かけを行っている。思いを表現することが出来ない入居者様には心に寄り添い信頼関係を築く事でその表情やしぐさから自己決定に繋げることが出来る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を楽しんでいただきながらその人のペースや身体状況を配慮しながら利用者様本位を尊重しての支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の声掛けや支援で身だしなみを整えている。自分が選んだ服やスタイルをしていたけるよに声掛け見守りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様の感想やアドバイスをいただきながら食事を楽しむ楽しめる支援を行っている。季節の食材を調理したり下ごしらえ等行っている。	食事に関連した作業を利用者にも手伝ってもらっており、日々の食事は職員も利用者と一緒にテーブルを囲み食事が楽しめるよう支援している。誕生会は利用者のための企画書を作成し、好みのものが提供されており、利用者の喜びになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握を行い、状況に合わせた食事形態に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後の口腔ケア体操、口腔ケア等声掛け、見守り、状況に合わせて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄リズムを把握し声掛け、案内をしている。	排泄チェック表や排泄パターンをもとにトイレへの誘導を行い、プライバシーに配慮しながらトイレへの声掛け、見守り等を行い、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く入れる食事メニューにしている。水分、牛乳の摂取や入浴し身体を温める等心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体状況に合わせた入浴支援をしている。	入浴は、週2回を目標にしているが、利用者の生活習慣や希望、心身の状態に合わせて支援している。楽しく入浴してもらえるよう、職員は会話しながら、コミュニケーションを図り、入浴支援を行っている。また、入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等を取り入れて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リハビリ体操、日向ぼっこ、歌を唄う等活動的に過ごせるように支援している。居室環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	二人確認で服薬支援をしている。受診後に変更がある場合は周知する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや季節感のあるクリスマス会や行事を通して楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出の支援をしている。	年間行事計画を策定しており、例年は、花見・バラ園ドライブ・紅葉ドライブ等に出かけていた。今年度は、コロナ禍の影響で外出の機会が少なくなり、事業所周辺や中庭での散歩や外気浴等で気分転換の機会としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いをしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月お便り、広報誌等お送りしている。年賀状やお知らせ等も定期的を送付している。入居者が欠ける方はお便りを書いてやり取りされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有スペースにお花や季節の飾をしている。食事中は音楽をかけたり温度、湿度、光にも配慮している。	玄関・廊下・広い掃き出し口のあるリビング等の共用空間には、利用者製作の季節感のある作品や習字・生花等が飾られ、落ち着いて生活が送れるよう配慮されている。気になる音、光等は感じられず、換気や温湿度は職員により管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置に考慮し入居者様同士が楽しい時間が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅にあるタンスや、仏壇、馴染みの物をお持ちいただき安心して暮らせるように支援している。トイレ、洗面所が配置されておりプライバシーの確保ができています。	居室には、自宅で使い慣れた馴染みのテレビ・机・椅子・こけし・家族の写真・アルバム等が持ち込まれ、一人ひとりが落ち着いて過ごせる生活空間が作られている。トイレ、洗面所が居室に設置されており、プライバシーの確保がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドや家具の配置等で排泄の自立に向けた環境の工夫をしている。		